第６学年　国語科学習指導案

日　時　平成２１年１１月１２日（木）

時　間	４　校　時	５　校　時
学　級	６年A組（場所：教室）	６年B組（場所：教室）
児　童	男子 15 名　女子 12 名 計　27名	男子 13 名　女子 11 名 計　２４名
指導者	教諭　佐藤　有文子	教諭　　高橋　勝彦

育てたい主となる能力（基礎・基本）
書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと
（読むこと　エ）

１　単元名　　筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
教材名　「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」（光村図書　６年下　希望）
「地球があぶない」（日本標準　みんなで考える道徳　６年）

２　児童観

児童は、６年上「生き物はつながりの中に」の学習において、筆者の主張を読みとり文章構成を考え筆者の意図に沿って要約し、それに対する自分の考えをもつという学習を行った。この学習を通して児童は、文章構成をとらえる学習では全体を大きく分けることはある程度できるが、段落と段落の細かいつながりをとらえるという点においてはまだ十分とは言えない。また、筆者の意図に沿って文章全体を要約することはできるようになってきたが、自分の考えをもち、お互いの意見を交流しあえる段階には至っていない。

普段の子供達の学習の様子を見ると、読書が好きで朝読書や読み聞かせの時間は集中して取り組んでいる。しかし、本の内容は小説を読んでいる子もいれば図鑑や絵本を手に取っている子もいて、個人差が大きい。また、自分の考えに自信がもてない子も多く、多様な考えを求められるような発問に対して発言をする子は固定化している。

３　教材観

本単元「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」は、筆者の考えをとらえ、平和や戦争について自分の考えをもち、その考えを伝えることをねらいとしている。

教科書教材の「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって「傷だらけ」となった物産陳列館が、多くの人々の平和を願う心によって、世界遺産「原爆ドーム」となった経緯を述べた文章である。全文が１３の段落から成り、「筆者の想い－原爆ドームがたどった歴史－世界遺産への道のり－まとめ」という文章構成になっている。原爆ドームについての史実と世界遺産となった意味について筆者の考えを丁寧に読みとっていくことにより、いかに多くの人々が「平和」を希求しているかが分かり、その後続く活動への動機を与えることにもつながる。また、筆者の主張が明確に述べられているので、児童がこれまでの説明文学習で身に付けた力を定着させつつ、「平和」について自分の考えを持ち、さらに外部に発信していくという学習につなげるのに適した教材であると考える。

定着教材「地球があぶない」は、人間の欲望のために地球上の生物にとって大切なものを失っている現状に危機感を抱いた筆者が、このままではいけないと訴えている内容である。そのことは児童の日常生活に深く関わる問題でもあり、筆者の主張に対する自分の考えをもつという読みの方法を身につけさせる上では適した教材であると言える。

４　指導にあたって

教科書教材「平和のとりでを築く」では、筆者の考えを正しく読み取り、それについて自分の考えを持つという力を付けるために、次のように学習を進めていきたい。

① 筆者の考えを正しく読み取るために、主語や文末表現、文章の内容に着目しながら筆者の考えと事実を区別し、どのような事実に基づいて筆者がどんな考えを持っているのかを叙述に即して正確に読み取らせたい。６年間の説明文学習のまとめであるので、自分で読み進めることができる力を付けられるよう、下敷きを利用しながら学習の流れを確認していく。文章全体の構成をとらえられれば、筆者の主張をとらえやすくなることを確認したい。

② 筆者の考えに対する自分の考えをまとめるため、自分の考えを書き表すポイントを示し、具体的に書き表すことができるようにしたい。また、書いたものを友達と交流し合う活動を取り入れ、友達の知識や考えを知ることができ、自分の考えに近いものや表現の仕方を取り入れ、自分の意見をもつための多くの材料を持たせたい。

③ 「自分の考えを発信する」というこの単元での最終的な課題に向けて、学習の見通しを持たせる。そのための根拠となるような情報を進んで集め、読んだり話し合ったりできるようにしたい。社会科で戦争や広島、長崎の原爆について学び、戦争関連の本、映画、情報番組などの本教材に関わる内容の資料に関わる時間を作り、自分の考えを深めたり高めたりすることの助けにしたい。

定着教材「地球があぶない」では、教科書教材で学んだ読みの方法がしっかり身につくように、筆者の考えを正しく読み取ったり、それに対する自分の考えをもったりする学習に取り組ませたい。

５　単元の系統

「生き物はつながりの中に」
② 文章構成を考えながら、筆者の考えをとらえる。
③ 文章の要旨をとらえ、要約する。
④ 筆者の考えを正しく読み取り、それに対する自分の考えをもつ。

↓

「地図が見せる世界」
③ 文章の要旨をとらえ、要約する。

↓

「平和のとりでを築く」「自分の考えを発信しよう」
④ 筆者の考えを正しく読み取り、それに対する自分の考えをもつ。
⑤ 表現の工夫をとらえる。

↓

「地球があぶない」
④ 筆者の考えを正しく読み取り、それに対する自分の考えをもつ。

６　単元の指導目標

書　く　力	読　む　力	言　語　の　力
◎ 自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考えることができる。 ◎ 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりすることができる。	◎ 筆者の考えをまとめ、自分はどのように考えるかをまとめることができる。 ○ 「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。	○ 文章にはいろいろな構成があることを知り、適切なものを考えることができる。

７　単元の指導計画と評価規準　　（全　１６時間　本時　Ａ組　７/１６時　Ｂ組　９/１６時　）

次	時	主な学習活動	評価規準
1	1	・単元名、リード文、題名から単元全体の学習のめあてをとらえる。 ・「平和のとりでを築く」を読んでおおまかな内容をつかみ、初発の感想を書く。	(関) 戦争や平和について、今の自分の知識や考えを進んで発表している。(発言・観察) (読) 興味をもって文章を読み、疑問や気づきをもとに、初発の感想を書いている。(ノート・発言)
	2	・形式段落①と初発の感想から読みの課題を共通理解する。	(読) 筆者の思いをとらえ、読みの課題を理解している。(発言・ノート)
2	3	・文章全体を３つのまとまりに分け小見出しをつける。	(読) 文章全体を３つのまとまりに分け、小見出しを付けている。(ノート・発言)
	4	・形式段落②～⑧を読み、原爆ドームのたどった歴史を読み取る。	(読) 原爆ドームがたどった歴史を正しく読み取っている。(ワークシート・発言)
	5	・形式段落⑨～⑪を読み、原爆ドームが世界遺産に登録されるまでの経緯を読み取る。	(読) 原爆ドームが世界遺産登録に至るまでの経緯を読み取っている。(発言・ワークシート)
	6	・形式段落⑫⑬を読み、筆者が伝えたいことを考えまとめる。	(読) 筆者が読者に伝えたいことを考えまとめている。(発言・ワークシート)
	7 A組 本時	・筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめる。	(読) 筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめている。(発言・ノート)
3	8	・「地球があぶない」を読み、要旨をとらえることができる。	(読) 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、筆者が伝えたいことを読み取っている。(ノート・発言)
	9 B組 本時	・筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめる。	(読) 筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめている。(発言・ノート)
4	10	・筆者の伝えたいことをもとに、戦争や平和について考え、話し合う。 ・発信する目的と相手、課題、方法を決める。 ・調べることを具体化する。	(関)「平和のとりでを築く」の内容を意識しながら、「平和」について読んだり話し合ったり書いたりしようとしている。(ノート)
	11 ・ 12	・現在の時点で考えていることを「仮の要旨」としてまとめ､それに説得力を持たせる材料を集める。	(書) 自分の要旨に説得力をもたせるために必要な材料を集めている。(ノート・観察)
	13	・集めた材料をもとに、「仮の要旨」を「確定した要旨」にまとめ直す。	(書) 集めた材料の中から必要なものを選択し、自分の意見が伝わるように組み立てを考えている。(ノート)
	14 ・ 15	・自分の考えを書きまとめる。 ・書きまとめたものを推敲する。 ・推敲したものを発信する。	(書) 具体的事例と意見、反対意見とそれに対する反論などを、読み手に分かるように書き分けている。(ワークシート)
5	16	・この単元での学習を振り返る。	(関) 自分の学習に対して達成感、満足感を感じたり、学習した意味を見出したりしている。(ノート・発言)

８　本時の指導計画（Ａ組　　７／１６時）

（１）本時の目標

筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめることができる。

（２）本時の具体の評価規準

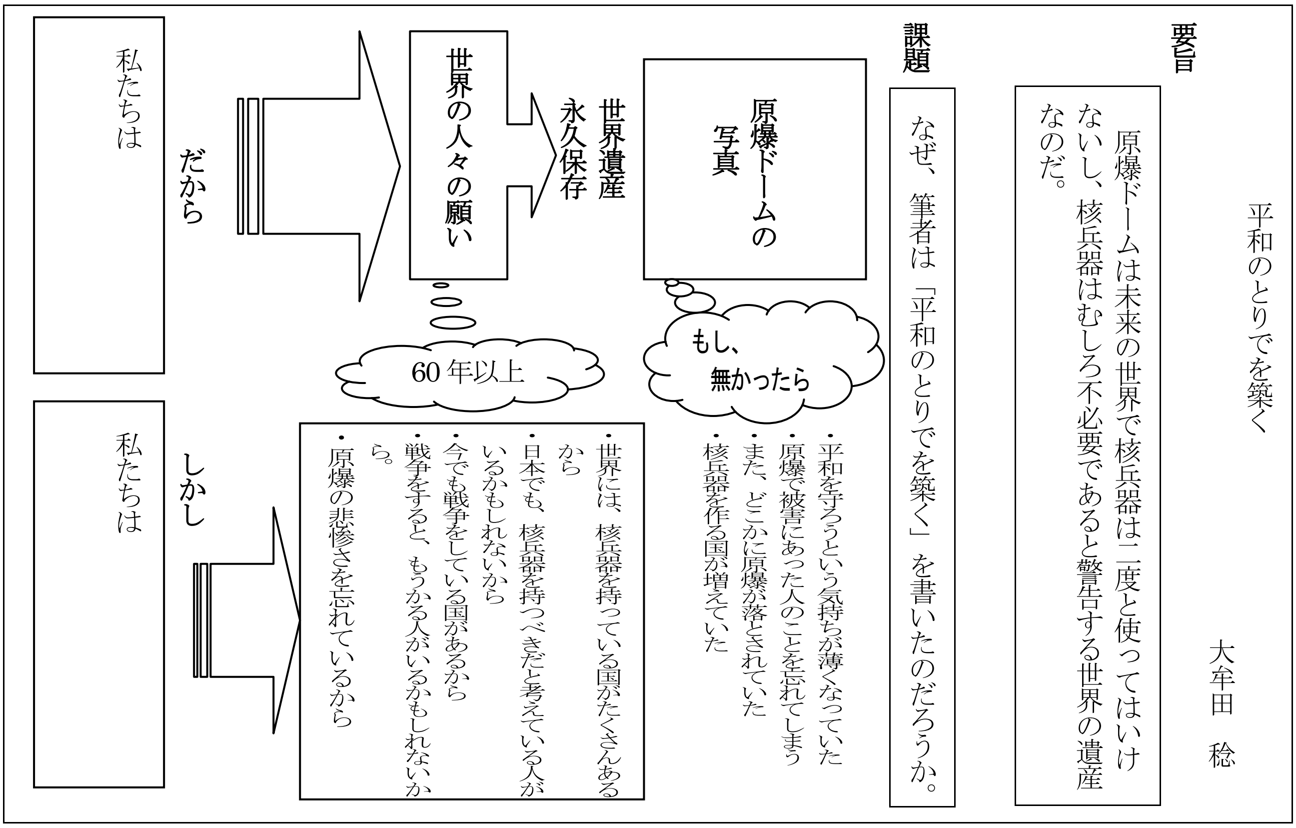
A	B	Cの児童への支援
筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを深め、文章にまとめることができる。	筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめることができる。	板書に目を向けさせ、書き出しのヒントを与える。

（３）本時の展開

過程	学習活動	○　主な発問　・予想される児童の反応	指導上の留意点
見通す ７分	１　前時までの学習を想起する。 ２　学習課題を確認する。 なぜ、筆者は「平和のとりでを築く」を書いたのだろうか。	○　前時にとらえた要旨は何でしたか。 ・原爆ドームは未来の世界で核兵器は二度と使ってはいけないし、核兵器はむしろ不必要であると警告する世界の遺産なのだ。 ○　もし、原爆ドームが無くなっていたら、世界はどうなっていただろうか。 ・平和を守ろうという気持ちが薄くなっていた。 ・原爆で被害にあった人のことを忘れてしまう。 ・また、どこかに原爆が落とされていた。 ・核兵器を作る国が増えていた。	・原爆ドームは永久保存することが決まっていて、世界遺産になっているのは、世界の人々の願いが強かったからだということを押さえた上で、筆者があえてこの文章を書いた意図を考えさせるようにする。
深める 33分	３　課題について考える。 （１）自分の考えを書く。 （２）全体で交流し合う。 ４　考えを深める。	○　自分の考えをノートに書いてみよう。 ・世界には、核兵器を持っている国がたくさんあるから。 ・日本でも、核兵器を持つべきだと考えている人がいるかもしれないから。 ・今でも戦争をしている国があるから。 ・戦争をすると、もうかる人がいるかもしれないから。 ・原爆の悲惨さを忘れているから。 ○　核兵器を使って喜ぶのはどんな立場の人だろうか。また、被害を受けるのはどんな立場の人だろうか。 （喜ぶ） ・政治家 ・兵器を作る工場の人 （被害を受ける） ・一般市民の人 ○　核兵器を使った戦争がもし行われたら、世界はどうなってしまうだろうか。 ・広島や長崎と同じように死ぬ人がたくさん出る。 ・核兵器も発達しているから、全世界が終わると思う。 ・人間が生きていけない世の中になる。	・今まで社会や総合の時間に学習してきたことを手がかりに、様々な面から筆者がこの話を書いた訳を考えさせたい。 ・政治家はどんな利点があるのか、また、一般の人がどんな被害を受けるのか考えさせる。 ・核兵器を使うためではなく、政治的に優位に立つために、核兵器を持とうとする国があることを押さえる ・日本でも少なからずそういう動きがあるということを確認する

	5　筆者の主張に対する自分の意見を書く。 6　自分の考えを発表する。 （1）となりの人と交流し合う。 （2）全体で交流し合う。	○　筆者の主張を受けて、「だから」か「しかし」に続けて、自分の考えを書いてみよう。 ・　だから、私たちは核兵器をこの世から無くすという強い意志を持たなくてはならない。核兵器を使った実験が行われていたり、核兵器を持とうとしたりする国が今現在もあるからだ。二度と広島のようなむごい体験をする人を作ってはいけない。 ・しかし、私たちは今現在も核兵器を無くすことができない。それは、核を持つことで、国際社会上優位に立てるし、核兵器を作ることでもうける人がたくさんいるからだ。そんな世の中は間違っているのだ。 ＜評価＞　　筆者が伝えたいことに対して、自分の考えを文章にまとめることができる。　　　（発言・ワークシート）	・書き方のポイントを示し、書き出しに困らないようにさせる。 ・となりの人と考えを交流しあい、自分の考えを深めたり、友達の考えの良さに気付いたりできるようにする。
まとめる 5分	9　今日の学習を振り返る。 10　次時の予告をする。	○　筆者の主張に対して自分の考えをまとめる時に大切なことはどんなことですか？ ・自分の身の回りにあることや、具体例を入れて自分の考えを述べると、相手によく伝わる。	・次時は別の教材文で筆者の主張に対する自分の考えを持つ学習をすることを確認する。

（4）板書計画



９　本時の指導計画　（Ｂ組　　９／１６時）

（１）本時の目標

筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめることができる。

（２）本時の具体の評価規準

A	B	Cの児童への支援
筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを深め、文章にまとめることができる。	筆者が伝えたいことを受けて、自分の考えを文章にまとめることができる。	板書に目を向けさせ、書き出しのヒントを与える。

（３）本時の展開

過程	学習活動	○主な発問　・予想される児童の反応	指導上の留意点
見通す ８分	１　前時の学習を想起する。	○前時にとらえた要旨は何でしたか。 ・地球や人類のことを本当に考えるのなら、自分のくらし方をもう一度じっくり考えてみる必要があるのではないか。	・ノート等をもとに前時の学習を振り返り、要旨を確かめさせる。
	２　環境破壊を引き起こす原因について考える。	○環境破壊を引き起こしている原因にはどんなものがありますか。 ・森林の伐採、ゴミの投げ捨て、車の排気ガス、汚水のたれ流し、工場からの煙、開発による自然の減少、など ○身近なところでは、どんな原因がありますか。 ・車の排気ガス、ゴミの投げ捨て、農薬散布、開発工事、など	・文章に書かれている内容以外にも知っている原因があれば挙げさせる。 ・身近なところでも環境破壊がおきていることに気づかせる。
	３　学習課題を確認する。 人間は、環境破かいを止めることができるだろうか。		
深める 32分	４　課題について考える。 （１）自分の考えを書く。 （２）考えを発表する。	○現在の環境破壊を止めることができるだろうか。 できる ・ゴミを減らし、リサイクルをするなど、環境によいくらしをしようとする人が増えてきているから ・科学技術が発達して、環境に良いものがたくさん作られると、環境破かいは止まると思うから できない ・多くの人は、環境を守るより便利で楽なくらしをしたいという気持ちの方が強いと思うから ・環境破かいの問題は知っていても、そのことを自分たちがあまり感じていないから	・「できる」「できない」のどちらかの立場に決めさせ、理由についても考えさせる。 ・考えがまとまらない児童には、板書などをもとに考えさせる。 ・できるだけ多くの児童に発表させ、多様な考えを引き出すようにする。
	５　筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめる。	○筆者の主張を受けて、自分の考えを文章にまとめてみよう。	・教科書教材で学習した自分の考えを文章にまとめる時のポイントを確認してから書かせる。

	6　自分の考えを発表する。 （1）となり同士で交流し合う。 （2）全体で交流し合う。	・**だから、私たちは、**地球環境を守るために車を使う機会を減らしたり、1枚の紙を大切に使ったりするなど、自分たちができることから取り組んでいかなければならないと思う。そして、その取り組みをみんなが続けていけば、今のような環境破壊は食い止めることができると思う。 ・**しかし、私たちは、**今の便利なくらしをそう簡単に変えることはできないと思う。なぜなら、いくら環境破かいが起きているといっても、そのことで自分が困っているという実感はないし、つい楽な方を選んでしまうと思うからだ。でも、このままでは環境破かいはどんどん進んでしまう。一度にいろんなことを変えるのは大変なので、まず自分にできそうな何か一つのことから変えていけばよいと思う。 ＜評価＞ 筆者が伝えたいことに対して、自分の考えを文章にまとめることができる。（発言・ノート）	・書き出しを「だから」又は「しかし」のどちらかに決めて、書かせるようにする。 ・友達の考えと自分の考えの違いを比べながら聞き合うようにさせる。
まとめる 5分	7　今日の学習を振り返る。 8　次時の学習内容を知る。	○筆者の主張に対して自分が書いた考えは、具体的なことを入れながらまとめられていましたか。 ・具体的なことを入れながら自分の考えをまとめることができたかどうか、自己評価をして挙手する。	・自分の書いた文章が、具体的なことを入れながらまとめられているか振り返らせる。 ・挙手により確認する。 ・次時は「平和」について自分の考えを発信するために、課題を決めて調べていくことを確認する。

（4）板書計画

地球があぶない

筆者の主張（要旨）

【環境破かいを引き起こす原因】
・森林の伐採
・ゴミの投げ捨て
・車の排気ガス
・開発工事
など

写真等の資料

課題

人間は、環境破かいを止めることができるだろうか。

（できる）
・環境をよくしようとする活動が行われているから
・環境に良いものがいろいろ作られると思うから
など

（できない）
・今の便利なくらしは、簡単に変えられないから
・環境破かいの重大さをわかってない人がいるから
など

◎筆者の主張に対する自分の考え

だから
私たちは

しかし
私たちは